

年 間 授 業 計 画

科目名		簿記	単位数	4 単位	学年・学科	1 学年流通・国際・情報 展開	必修					
教科書番号		商業 7 0 9 (実教)				副教材名	最新段階式簿記検定問題集全商 2. 3 級 令和 7 年版 全商簿記実務検定模擬試験問題集 2 級 (実教出版)					
教科書名		新簿記										
科目の目標		簿記に関する知識と技術を習得させ、その基本的な仕組みについて理解させるとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。										
学習内容と進め方		簿記の基礎・基本を学習し、会計の分野も一部学習します。										
学習の留意点		(1) 企業における取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を習得するため、取引を分解し、取引要素の結合関係を確認しながら学習を進めることで理解が深まります。 (2) 教科書に書かれている文章を読んで覚えるだけでなく、授業で取り上げる例題や記帳練習を繰り返し行うなど、様々な課題を解決することで、より高度な学習に進むことができます。 (3) 授業に積極的に参加することが大切です。より合理的、能率的に記帳する方法を探求し、わからないところを級友と教え合うなどしながら学習を進めることで、学習内容の理解を図ることができます。										
月	単 元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考（評価項目）					
				1	2	3						
4	オリエンテーション	9	授業の受け方・学習方法と評価について		○	○	簿記の定義、簿記の目的、簿記の種類、簿記の歴史、簿記の前提条件について、思考判断し、それを表現する仕方を身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	I 1 章 企業の簿記		簿記の意味・目的・種類・歴史									
	I 2 章 資産・負債・純資産 貸借対照表	6	簿記の 5 つの要素、資産・負債・純資産、貸借対照表	○	○	○	資産・負債・純資産と貸借対照表、資産・負債・純資産の増減と純損益の計算について、その知識・技術を身に付け、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	5 I 3 章 収益・費用 損益計算書	1 2	収益・費用、当期純損益の計算、損益計算書	○	○	○	資本の増加と減少の原因、収益と費用のそれぞれの意味、損益法による純損益の計算、損益計算書について、その知識・技術を身に付け、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	I 4 章 取引と勘定		取引の意味・勘定の意味、勘定口座・勘定への記入法	○	○	○	簿記上の取引概念、勘定や勘定口座、勘定科目の意味、取引の分解および勘定記入のルールについて、その知識・技術を身に付け思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	I 5 章 仕訳と勘定への転記		仕訳、転記	○	○	○	仕訳と転記の意味について理解し、実際にこれら二つの作業ができる知識・技術を身に付けている。仕訳と転記における、それぞれの手順について思考・判断し、その結果、自分が身につけたことを表現できる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	I 6 章 仕訳帳と総勘定元帳		仕訳帳、総勘定元帳	○	○	○	主要簿の概念を理解し、仕訳帳および総勘定元帳の基本的な記帳方法について、その知識・技術を身に付け、仕組みについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	I 7 章 試算表	1 6	試算表の意味、試算表の種類と作成方法	○	○	○	試算表の意味および主たる目的を理解し、三種類の試算表を実際に作成する知識・技術を身に付けている。貸借平均の原理に基づく試算表の作成方法について思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
6	I 8 章 決算		決算の意味、手続き、精算表、本手続き、報告の手続き	○	○	○	決算の意味、総勘定元帳の締め切りに重点を置いた決算の手続、決算の報告について、その知識・技術を身に付けている。勘定間における振り替えの仕組みについて思考・判断し、それを振替仕訳として表現する仕方を身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	II 1 章 現金・預金の記帳		現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、当座借越、当座預金出納帳、その他の預金、小口現金	○	○	○	簿記上の現金の入金と出金、現金及び小口現金の記帳法と、当座預金など預貯金の預入と引出及び当座借越の記帳法について理解し、それを身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	II 2 章 商品売買の記帳	9	分記法と三分法、仕入・売上帳、商品有高帳	○	○	○	3 分法による商品の仕入れと売上の記帳法と、返品や仕入諸掛、発送費などの記帳法について理解し、それを身に付けている。仕入帳、売上帳の意味と記入内容について理解し、それを身に付けている。商品有高帳の意味と記入内容について理解し、それを身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
7	II 3 章 掛取引の記帳		売掛金勘定と売掛金元帳、買掛金勘定と買掛金元帳、貸し倒れ	○	○	○	商品売買における掛け取引の意味と勘定と掛元帳の関係性について理解し、記帳法について身に付けている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
8	II 4 章 手形取引の記帳	9	手形の種類、約束手形・為替手形の記帳、手形の裏書・割引、受取手形記入帳と支払手形記入帳	○	○	○	手形の種類（約束手形と為替手形）や手形の裏書・割引、記入帳に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、受取手形記入帳・支払手形記入帳への記帳のしかたを理解し、記帳に活用できる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	II 5 章 その他の債権・債務の記帳		前払金と前受金、未収金と未払金、貸付金と借入金、手形貸付金と手形借入金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、商品券	○	○	○	前払金勘定や前受金勘定、借用証書や手形による金銭の貸し借り、商品券についての基本的な知識を身に付け、記帳法を理解し、正確に仕訳して処理したり説明したりすることができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	II 6 章 有価証券の記帳	6	有価証券、買い入れ、売却	○	○	○	有価証券の種類や買い入れ・売却についての基礎的・基本的な知識を活用し、正確な記帳をおこなうことができ、知識を活用して適切に判断することができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	II 7 章 固定資産の記帳		固定資産、固定資産の取得と売却、固定資産台帳	○	○	○	固定資産の種類・取得・売却についての基礎的・基本的な知識と技術を習得し、固定資産台帳への記帳のしかたを理解し、記帳のしかたを説明することができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	II 8 章 販売費および一般管理費の記帳		販売費および一般管理費、販売費および一般管理費の記帳	○	○	○	販売費及び一般管理費についての基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、その記帳のしかたを理解し、正確に記帳することができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	II 9 章 個人企業の純資産の記帳		個人企業の純資産、追加元入れと引き出し	○	○	○	個人企業の純資産や追加元入れと引き出しについての基礎的・基本的な知識と記帳のしかたを理解し、その内容を記帳によって適切に表現できる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
9	II 10 章 個人企業の税金の記帳	1 5	個人企業の税金、所得税・住民税、事業税・固定資産税・印紙税、消費税	○	○	○	個人企業の税金の種類や役割についての基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、その記帳のしかたについても理解している。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	III 決算（1）		決算整理の意味、商品に関する決算整理、貸し倒れ、固定資産の減価償却費の計算と記帳、現金過不足の整理、引出金の整理、棚卸表、8 けた精算表の作成、帳簿の締め切り、財務諸表	○	○	○	決算整理を含んだ決算についての基礎的・基本的な知識を習得し、売上原価の計算・貸倒の見積もり・固定資産の減価償却のしかたなどを正確に理解している。決算の内容を、精算表や財務諸表を作成することによって表現することができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
1 0	IV 1 章 帳簿	1 3	帳簿の種類、分課制度と帳簿組織、帳簿の形式、コンピュータの利用	○	○	○	帳簿の種類や分課制度、帳簿組織・帳簿の形式に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、帳簿の役割や活用法について正確に理解し、それぞれの帳簿の長所と短所を適切に表現することができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
	IV 2 章 3 伝票制による記帳		証ひょう、伝票、仕訳伝票の利用、3 伝票制	○	○	○	3 伝票制による取引の記帳や集計と転記についての基礎的・基本的な知識と記帳処理のしかたを理解し、伝票を用いる利点や起票のしかたを適切に表現することができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					
1 1	V 2 章 特殊な手形取引の記帳	1 6	手形の書き換え、不渡手形、荷付為替手形、手形の二次的責任	○	○	○	手形の振り出し・受け取り・裏書に関する基礎的な知識と技術を身に付け、手形の書き換え・不渡り・為替手形などの特殊な取引についての記帳処理についても正確に理解し、その内容を記帳によって適切に表現できる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。					

12	VII決算（2）		減価償却費の間接法による記帳、定率法による計算、 有価証券の評価、費用・収益の繰り延べ、費用・収益の見越し、精算表の作成、損益計算書・貸借対照表	○	○	○	間接法による減価償却費の記帳、有価証券の評価、費用・収益の繰り延べや見越しに関する決算についての基礎的・基本的な知識と、損益計算書と貸借対照表の作成方法を理解し、損益計算書と貸借対照表の作成のしかたを身につけている。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	VIII 1 章 本支店間の取引	3	支店会計の独立、本店・支店間の取引、支店相互間の取引	○	○	○	
	VIII 2 章 本支店財務諸表の合併	3	本支店財務諸表合併の必要性、未達取引の整理、合併貸借対照表の作成、合併損益計算書の作成、	○	○	○	
	□株式会社の設立・開業と株式の発行 □当期純損益の計上と剰余金の配当・処分 □株式会社の税務 □株式会社の財務諸表の作成 模擬問題 総合問題	5 3 105	株式会社のしくみ、株式会社の設立、資本金の増加と繰延資産 当期純損益の計算、剰余金の配当および処分 株式会社の税金 株式会社の財務諸表の作成	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	
1							企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断できる。また、その内容を損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を作成することができる。自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
2							
3							
評価方法		(1) 評価の観点は下記の表のとおりとする。 (2) 具体的には定期考査や小テスト、実習問題、作品評価、学習活動への参加の仕方や態度などから評価します。					
評価の点	観 点	趣 旨					
	1 知識・技能	・企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得し、仕訳や転記、決算など簿記の基本的なしくみについて理解し、幅広い範囲から資料を収集・選択し、適切に処理したり説明したりすることができる。					
	2 思考・判断・表現	・企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断できる。また、その内容を損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を作成することで適切に表現することができる。					
	3 主体的に学習に取り組む態度	・企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指して主体的に学習に取り組み、ビジネスの諸活動を記帳によって計数的に把握しようとしている。					
評価基準	1 知識・技術	A 企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付けている。 B 企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識・技術を概ね身に付けている。 C 企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付けていない。					
	2 思考・判断・表現	A 企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決ができ、また、その内容を財務諸表で作成して表現することができる。 B 企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決ができ、また、その内容を財務諸表で作成して表現することが概ねできる。 C 企業における取引の記録・計算・整理に関する諸問題の解決ができ、また、その内容を財務諸表で作成して表現することができない。					
	3 主体的に学習に取り組む態度	A 企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指して主体的に学習に取り組める。 B 企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指して主体的に学習に概ね取り組むことができる。 C 企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指して主体的に学習に取り組むことができない。					